

果樹カメムシ情報第4号

平成26年7月24日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

**ヒノキからの果樹カメムシ類の離脱開始時期は、豊橋市、豊川市、岡崎市で8月上旬
蒲郡市ではすでに離脱開始！
越冬世代成虫量が多いため、今後もほ場への飛来に注意！**

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町で多い状況が続いており、7月第2半旬以降、スギ、ヒノキが多い新城市でも急増しました。(図1)。
- (2) 7月中旬に行ったヒノキ球果のビーティング調査では、県内調査地点(6地点)全てで成虫を確認し、5地点で幼虫の生育を確認しました。ヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの寄生虫数は、成虫が0.80頭(平年0.24頭)、幼虫は0.63頭(平年0.36頭)で平年よりやや多い状況です(図2)。

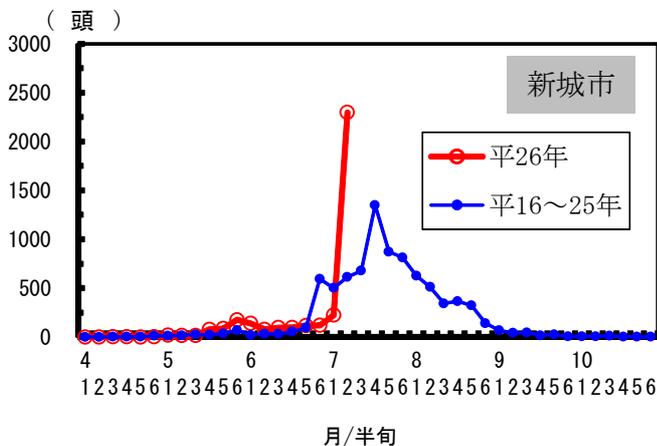


図1 フェロモントラップにおけるの誘殺状況

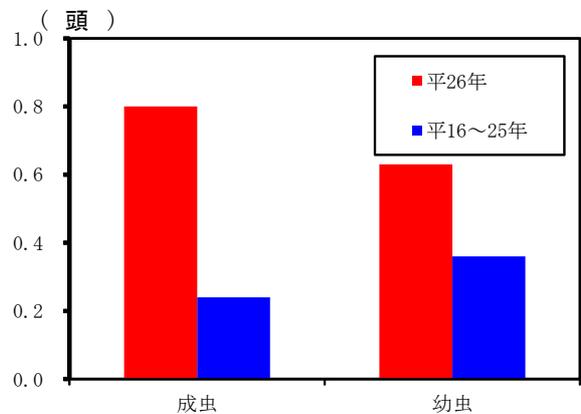


図2 7月中旬のヒノキ球果における生息虫数

2 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の口針鞘数から予測した離脱開始時期

ヒノキ1球果あたりの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果が餌として不適となるため、果樹カメムシ類はヒノキ林から離脱し果樹園へ飛来すると考えられます。7月中旬の口針鞘数から予測した離脱開始時期は、蒲郡市清田町で6月下旬、蒲郡市神ノ郷町で7月中旬、豊橋市、豊川市、岡崎市で8月上旬と予測します。蒲郡市ではすでに離脱を開始していると推定します(表1)。

表1 7月中旬のヒノキ球果における口針鞘数と果樹カメムシ類の離脱開始予測日

調査地点	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果あたりの口針鞘数	9.5	8.3	23.5	16.0	8.0	4.4
離脱開始予測日	8月5日	8月9日	6月22日	7月14日	8月10日	8月22日

ヒノキ球果採取日：7月16日

3 今後の発生予測と対応

- (1) 越冬世代成虫量が多いため、8月上旬頃までにヒノキから果樹カメムシ類が離脱を開始した場合、果樹園への飛来量は多くなると予測します。
- (2) ほ場での発生状況に十分に注意し、飛来を確認したら表2を参考にすぐに防除しましょう。

表2 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	系統
ナシ	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	B
	アドマイヤー水和剤	1000倍	収穫3日前まで	2回以内	A
	スカウトフロアブル	1500倍	収穫前日まで	5回以内	B
	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	A
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	A
ブドウ	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	A
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	A
カキ	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	B
	スカウトフロアブル	1500倍	収穫7日前まで	5回以内	B
	アドマイヤー水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	A
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	A
	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	A

注) 系統の「A」はネオニコチノイド剤、「B」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。